議会報告 未来（あす）への扉

まつばやし孝之の議会通信　第30号　2021/1

発行：まつばやし孝之事務所
〒699-1106　雲南市加茂町加茂中1273-2　Tel.0854-49-6256　Fax.0854-49-8881

ライン公式アカウント
ID @237sjisj

デジタル版はこちら

謹賀新年

謹んで新春のお慶びを申し上げます
荒れた天候、そして新型コロナ感染症により例年とは異なる年末年始となりました
体調には十分にご留意いただきますようお祈り申し上げます
お陰様で11月の市議会議員選挙におきまして3期目の当選をさせて頂くことが出来ました
より一層、豊かな地域を目指し邁進し続けることをお誓いいたします
本年も何卒よろしくお願いいたします

令和２年 雲南市議会 12月定例会

会期　令和２年12月9日(水)～22日(火) 14日間

今定例会では、条例、一般事件、予算の46件の議案が上程され、慎重審議の結果、全て原案通り可決しました。一般会計補正予算22億5,530万円を追加し、374億5,850万円となりました。

定例会の初日、副市長の選任同意案件から始まり、吉山 治副市長を賛成全員で可決しました。そして原新市長の所信表明から議案の上程、説明へと進み順調に12月定例会初日の日程が終わりました。夕方、議会事務局から「市長入院」との連絡があり議会運営委員会で調整の末、一般質問への答弁は副市長が代読するという異例な展開となりました。7日目以降から委員会に入り、産業建設常任委員会では中心市街地活性化事業のホテル誘致の進捗状況や食の幸発信推進事業、有害鳥獣対策事業などについて議論しました。中活ビジネスホテルは令和４年４月工事着手、令和５年４月開業、またコトリエットは喫茶・珈琲店と12月に契約が交わされ、すべての店舗が決定しました。食の幸事業については、新市長が精査対象事業としていることから、ベテラン議員からは「６年間にわたり議論してきた事業である。議会への説明がされないまま精査することは議会軽視ではないか」との指摘もあり、丁寧に説明するよう求めました。そして議会8日目の夜、市長逮捕という前代未聞の報道に激震が走りました。急遽９日目の朝、不測の事態に対し議会運営委員会が緊急招集されました。議会としては提出議案を粛々と審議し、市政を止めないことも重要です。最終日の冒頭、市長辞職に対する同意案件が提出され全会一致で可決承認されました。公職選挙法により、選管受理後50日以内に選挙が定められており１月24日告示、31日投開票が決定しました。

一般質問

12月議会では16名が登壇しました。

今回は未来を担う子供たちの学びと持続可能な地域のための経済振興のスタンスを質しました。

質問1 …GIGAスクール構想について…

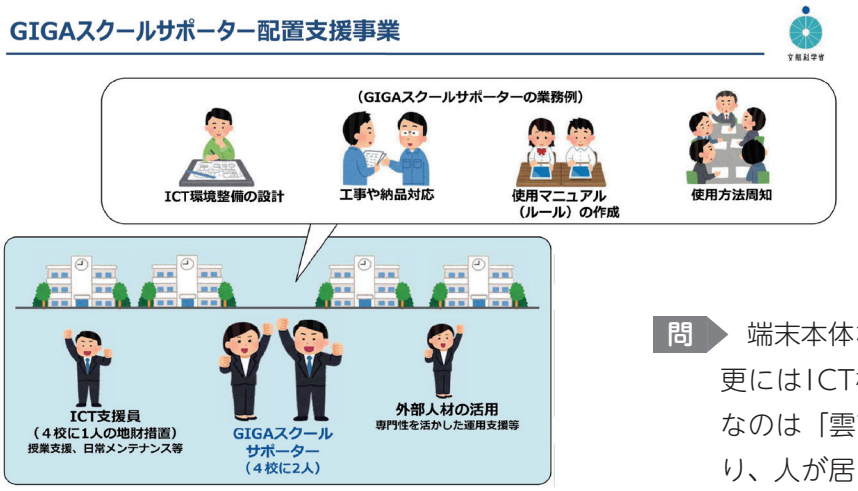
国はグローバル化に伴う多様化に対応するために、義務教育過程にICT機器の導入を決定し、全国一斉の端末配備とFTTH化、専門員派遣事業を示した。

本市は国の構想とは別に「どこにも負けない雲南市版GIGAスクール構想」を令和６年度中に完了するとしたが、国からの通達により本年度中の整備となった。

問 教育の内容は変わらずとも、教え方が大きく変わろうとするのがGIGAスクール構想である。

雲南市の教育がどのように変わっていくのか、何を大切にするのか、保護者はもちろん地域にも説明することが重要ではないか。先進事例として、神戸市では「GIGAスクール通信」を配布し市民との共有を図っているが。

教育長 個々の習熟度を把握した学習の展開によって、学びの個別化、指導の個別化が行えるようになり、教え方、学び方が大きく変わると認識している。ケーブルテレビ等で共有に努めたが、更に保護者、市民に発信する。



問 ICT活用教育アドバイザー、GIGAスクールサポーター、ICT支援員を置けるが設置の考えは。

教育長 マンパワーとして都会地ほどICTに長けた人が居ない。来年度、地元で研修等を開催しスキルアップを図る。

問 端末本体などのハード面、操作方法などのソフト面、更にはICT機器と教科書を活用した授業づくり。重要なのは「雲南市の教育カリキュラムを作る」ことであり、人が居なければ都会からでもスペシャリストを招致すべきではないか。

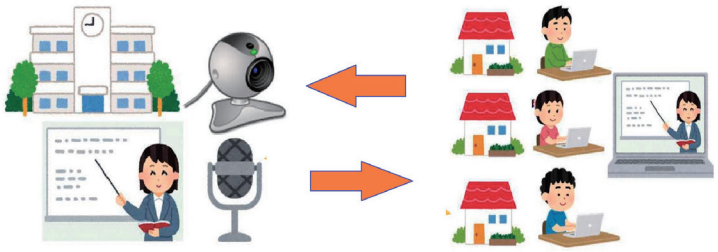
教育長 現在も配置しているが常駐ではない。外部人材、アドバイザー利用は当然やる。

問 学校は、児童生徒数の減少によりギリギリの教員数で運営をされ、日々の業務は多忙を極めている。ICT機器の操作や取扱研修が加わることによる多忙感は否めないが、どう対処するのか。

教育長 現場では職員会議においてICTの研修や授業研究が行われており、新たな負担が増大しないよう工夫されている。その軽減策に対し支援する。

問　新型コロナ感染症の第３波が猛威を振るっている。緊急事態宣言の発令に伴う臨時休校も視野にオンライン授業もあり得る。６月定例会以降どのような検討がなされたか。

学校からの遠隔学習機能の強化



教育長　すべての家庭でインターネット環境が整っていないことから、オフラインでも利用できる端末を想定している。また、朝の会・デジタル連絡帳・お便り・資料配布やオンライン保護者会など、出来ることから取組む。

質問2　…経済振興のスタンスについて…

問　経済状況は新型コロナ第３波により、また難しい状況になりつつある。雲南市商工会が把握している金融支援は４月から10月末の７か月で約400件、総額42億であった。対前年比で件数は６.25倍、金額は10.5倍と、まさに非常事態である。

融資の返済は、これまでの返済に上乗した金額を返していくこととなり、負担感と精神的ダメージは相当なものでもある。こうした不安を解消するためには抜本的な制度改革が必要である。未曽有の国難であるコロナ危機に対し小規模事業者・零細事業者に手を差し伸べる支援策は基礎自治体では支えきれない。

今こそ、国や県に支援策・対応策を求める時であるが見解を伺う。

副市長　県制度融資は当初３年間無利子無担保で借入れ、４年目以降に有利子の返済制度となっているが、コロナ禍で長期的な対応が必要との意見が出ている。必要に応じて国や県に要望を行う。

問　国、県、市から様々な支援メニューが提案されることは有難いが、同じような時期に同類の事業が重複実施されることは事業者にも消費者にとっても分かりづらい。より効果的な事業展開が図れないか。

産業観光部長　事業者、市民から混乱の声が届いている。総合的な効果が上がるよう内容・時期等を見極めて実施する。

問　商工会は市民と事業者の間に立つ重要な活動をしているが、コロナ対応により多忙を極めている。商工会への下支えは、市内事業者支援へと繋がり市内経済の好循環を導き出す。今を頑張る事業者を守り、事業承継によって未来を創造していくことこそ持続可能なまちづくりと考える。経済振興に対する市のスタンスを伺う。

副市長　コロナ禍の中、事業者は事業継続と雇用の維持を図られている。商工会は事業者に対し、相談、指導、各種補助金申請、更に事業承継等においても重要な役割を果たしていると認識している。商工会をはじめ島根県事業引継ぎ支援センター等と綿密な連携を図り、事業者への支援を講じる。

ま と め

現場を重視した目線に立ち、市民・事業者の下支え機関である商工会への協力体制を求めます。第２期雲南丸は、通常の行政課題の上に新型コロナ対策という、未知の課題への対応も求められます。アフターコロナのスタンスを明確に示すことこそ、市内経済は元より市民生活そのものの意欲向上につながります。事業承継が実現し地に足がついた事業所づくり、そして、コロナ禍であってもしっかりと学べる学校づくりは、「持続可能なまち雲南市」の象徴となります。学びや生業が広がる雲南市、現場の声や想いが実現する雲南市となることを求め一般質問を終わりました。

令和2年度　12月定例会　一般会計補正予算

22億5,530万円で可決!!（総額374億5,850万円）

（一部抜粋）

事　業　名	予算額	内　容　説　明
担い手集積支援交付事業費補助金	260万円	農地中間管理機構を活用した認定農業者の農地集積に対する県交付金
有害鳥獣捕獲奨励事業	980万円	捕獲頭数増による報奨金の増額
キャッシュレス決済消費喚起支援事業	2,280万円	キャッシュレス決済を活用した際にポイント還元を行う消費喚起支援事業
公立学校情報機器整備事業	3億3,100万円	GIGAスクール構想に係る児童生徒・教員用端末整備費
中学校教師用指導書・準拠教材整備事業	1,047万円	令和３年度、教師用教科書、指導書及び準拠教材を整備
ふるさと納税推進事業	7,290万円	寄付額、寄付件数増に伴う経費の増

第３回　臨時会

会期　11月30日（月）　１日間

任期満了に伴う、市長・市議会議員選挙が11月８日公示、15日投開票で行われ、市長は無投票当選、市議会議員選挙は定数19名に対し22名が立候補し８年ぶりの激戦となりました。11月16日に当選証書の付与式があり11月30日に臨時議会が開催されました。

議長・佐藤隆司議員（４期目）、副議長・矢壁正弘議員（３期目）、監査委員・原 祐二議員（３期目）が決定しました。私は産業建設常任委員会委員長を仰せつかりました。また、引き続き議会ICT化検討会議委員長も拝命いたしましたので、更に議会改革にも力を注ぎ「議会の見える化」に努力してまいります。（特別委員会等、議会構成の詳細は議会広報61号をご覧ください）

産業建設常任委員会

編集後記

第２期雲南丸のスタートとして、多くの市民の皆様から期待され開会した12月議会は、市長欠席…逮捕…辞任という波乱の市議会となりました。執行部、議会ともリフレッシュした定例会で新型コロナにも負けない雲南市を築く、未来に向けた議論を展開したかったところです。そして何より残念であったのは、「松江シティ FCユースチーム誘致」についてであります。高校魅力化を唱え、通学支援や下宿・寮の提案等をしてきた私としては一番重要なタイミングで議論の場を設けないまま報道されたのは残念です。高校入試の時期との兼ね合いも理解できますが、民間チームと行政指針の狭間で揺れ動いた生徒の気持ちを察すると、どこに想いの中心を置いて議論し、報道すべきか…の配慮が足らなかったと言わざるをえません。我々議員も含め肝に銘じなければならないと考えます。

さあ、あまり時間が無いところではありますが新たなリーダーを選出しなければなりません。この混乱の今こそ「市民総出の責任」において第２期雲南丸船長を選びましょう!!